

作成（2025 年度）

簡易版 TP（ティーチング・ポートフォリオ）

氏名	宇高寛子
所属機関名	生物地球学部 生物地球学科
職位	准教授
在籍年	0.5 年

教育の責任

2025 年 4 月に岡山理科大学に着任した。生物地球学部生物地球学科の学生を対象に、「昆虫生理・生態学」や「動物学実習」といった、昆虫や動物に関する実習・講義を担当している。また、昆虫をはじめとする陸生無脊椎動物を対象とした、生理学・生態学分野をテーマとした卒業研究の指導も行っている。

教育の理念

社会に出ると、受け身で良い状況は少なくなり、さらに、自身が直面する情報や状況は複雑化する。そのため、自分の意見を持ち、それを他者に伝えるコミュニケーション能力が重要となる。大学で新しいことを知る・学ぶことは楽しい反面、初めて学ぶことには難しさを感じることもある。難しいと感じてそこで投げだしてしまわず、理解しようと努力する経験を積むことは、社会で生きていく力となるはずである。学生がもともと持っている思考力や論理力やコミュニケーション能力といったものを、授業や実習、卒業研究といった大学教育を通じ、より伸ばすことを目指している。

教育の方法・方針

授業では、単に知識を得るだけでなく、得た知識をもとに自分自身の意見や考え方を発展させられる力を身に付けてもらいたい。そのため、授業で出てきた用語などをただ暗記するだけでなく、論理を理解するよう指導している。また、理解度の把握や、その回に学ぶテーマについて考える機会とするために毎回質問票を配布している。質問票に記載の多かった質問については、授業での説明が足りなかった部分や、わかりにくかったと思われる箇所の補足を加えて次の回再度説明を行う。板書を基本としているが、テーマによってスライドを併用している。

卒業研究では、これまでの授業とは異なり、各人が研究を通じてより専門的なことがらを学ぶ機会とする。研究課題をより深く理解するためには先行研究（論文）や書籍を読むことが欠かせないが、慣れないことで苦勞が多いと思われる。定期的なミーティングやゼミ活動を通じて理解を助けていく。また、研究計画の作成やデータ整理を通じて、プレゼンテーションや文章作成スキルの向上を目指す。

教育の成果

- ・昆虫に関する知識や理解が深まったと回答している学生が多くみられた。
- ・授業方法（スライドや板書）については、学生によって意見が分かれているが、理解度を確認しながらより適切な授業進行を目指す。
- ・卒業研究では、週 1 回のゼミや実験進度に合わせたミーティングを通じ、専門用語の使い方や論文の読み方、適切な実験方法の選択の仕方などが身に付きつつある。

今後の目標

授業アンケートをもとに、講義の進度や内容を再考し、興味や理解力の異なる幅広い学生をより満足させられる講義を目指す。授業時間に配布する質問票を活用し、より、学生が質問しやすい環境を整えていく。

根拠資料

- ・ 授業アンケート
- ・ 授業中に配布している質問票